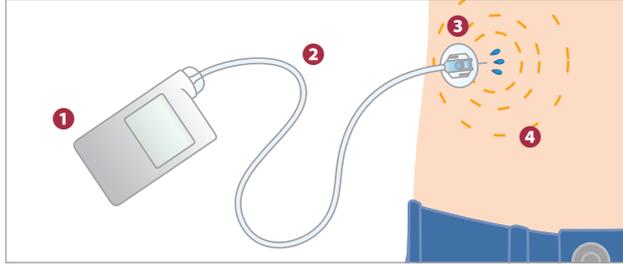


インスリンポンプ療法の紹介

インスリンポンプ療法とは？

インスリンポンプは、お子さんの身体のインスリン必要量に合った少量の超速効型インスリンを体内に注入する携帯型の小型機器です。

お子さんの身体におけるインスリンの注入方法とは？



- 1 インスリンポンプは昼夜を通して設定したインスリン量(基礎注入)を注入するようにプログラムされています。
- 2 柔軟性のあるチューブによってインスリンがインスリンポンプから注入セットに送られます。
- 3 皮下に留置した細く柔らかいカニューレを通して少量ずつ、インスリンを体内に注入します。
- 4 インスリンが体内に吸収されます。

インスリンポンプによるインスリン注入方法とは？

インスリンポンプによってお子さんの必要なインスリン量を体内に注入する方法は2つあります。基礎(ベース)注入と追加(ボラス)注入です。



基礎(ベース)注入とは、食事以外の時間帯に目標血糖値を維持するため、24時間365日持続的に少量のインスリンを注入する方法です。



追加(ボラス)注入とは、主に食事や間食時に必要となる追加のインスリン注入のこと。高血糖を正常値に戻すときに必要量のインスリンを注入する方法です。お子さんの体内に残っているインスリン量(残存インスリン量)を記録し、必要なインスリン量を算出するボラススイッチャード機能はお子さんの高血糖や低血糖リスク軽減にも繋がります。ボラススイッチャード計算機能を用いて、正常値以上(またはそれ以下)になるリスクを低下させます。

インスリンポンプ療法が選ばれる理由とは？

- お子さんのライフスタイルに合わせた治療が可能になります
- かんたんなボタン操作で、お子さんの活動に合わせたインスリン注入や停止が可能です
- 重篤な高血糖や低血糖予防に繋がります
- 糖尿病の合併症リスクを軽減させます
- 生活に合わない場合は、やめることができます

インスリンポンプ療法に関する情報をチェックできるウェブサイト

「インスリンポンプ療法.jp」

<http://www.medtronic-dm.jp>



インスリンポンプ療法.jp 検索

提供: 日本メドトロニック株式会社

(2014年12月公開予定)

スマートフォンやタブレット端末からもアクセスできます

お問い合わせは当院まで

参考文献:

1. Bode BW, Steed RD, Davidson PC. Reduction in severe hypoglycemia with long-term continuous subcutaneous insulin infusion in Type 1 diabetes. *Diabetes Care*. 1996;19:324-327
2. Doyle EA, Weinzimer, Steffen AT, Ahern JAH, Vincent M, Tamborlane WV. A randomized prospective trial comparing the efficacy of insulin pump therapy with multiple daily injections using insulin glargine. *Diabetes Care*. 2004;27(7):1554-1558
3. The Diabetes Control and Complications Trial Research Group. The effect of intensive treatment of diabetes on the development and progression of long-term complications in insulin-dependent diabetes mellitus. *NEJM*. 1993;329:977-986

販売名: メドトロニック ミニメド600シリーズ
医療機器承認番号: 22500BZX00369000

販売名: パラダイム リザーバー
医療機器承認番号: 21800BZY10166000

販売名: パラダイム インスリンポンプ
医療機器承認番号: 21700BZY00314000

販売名: インスリンポンプ 注入セット
医療機器承認番号: 225ACBZX00013000



日本メドトロニック株式会社 ダイアビータス事業部

〒105-0021 東京都港区東新橋2-14-1

www.medtronic.co.jp



インスリンポンプ療法について

0~12歳未満の患者さんと保護者の方へ



インスリンポンプ療法により
お子さんの人生をより豊かなものに

今日の快適さと明日の健康を

～インスリンポンプ療法でお子さんの人生をより豊かなものに～

より自由、 より快適な生活のために

よりシンプルな操作と少ない注射回数

- かんたんなボタン操作で、お子さんの活動に合わせたインスリン注入や停止ができます。
- インスリン注入のための針を刺す操作は2～3日に1回の頻度です。^{*}
(一時的な取り外しもかんたんに行え、お風呂やプールにはいることもできます。)

おやつにも対応

- ボタン操作のみで、インスリン注入ができるため、食べる量や、タイミング、回数などの食事に関する制限から解放される可能性があります。

ライフスタイルに合わせた インスリン調整が可能に

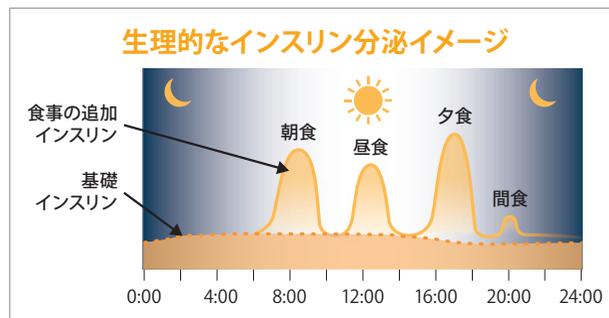
- インスリン注入を途中で止めたり、注入量を「その場で」変更できるため、食事の食べ残しや運動、急なスケジュール変更やシックデイにも対応できます。

^{*} 1日4回以上の血糖自己測定は引き続き行ってください

快適な日々を送るために

昼も、夜も、いつでも安心

- 基礎インスリンを時間帯毎に細かく設定できるため、より生理的なインスリン分泌に近付けることができます。



低血糖リスクの軽減

- インスリンポンプは重度低血糖イベントリスクを最大**85%**まで低減させることが報告されています。¹

目標A1C値を達成できる可能性も！

- インスリンポンプを適切に使うことによりインスリン注射に比べて目標とするHbA1c値を達成できる可能性が約4倍になるという結果も出ています。²

将来の健康のために

インスリンポンプは、より良好な血糖コントロールを可能にし、長期的な合併症リスクの軽減が可能になります。³



目の障害 (網膜症)

最大76%まで低減できる可能性があります。³



心血管の障害

最大41%まで低減できる可能性があります。³



神経障害 (ニューロパシー)

最大56%まで低減できる可能性があります。³



腎障害

最大69%まで低減できる可能性があります。³

